

味生地区タウンミーティング(要約)

テーマ：味生地区のまちづくりについて

平成30年3月22日（木曜日）

【市長】 皆さん、こんばんは。今日は、平日の夜ということで、いろいろとお忙しかったのではないかと思います。お集まりいただきまして、ありがとうございます。タウンミーティングの開催に際しまして、公民館長をはじめ、地域の皆様方のご協力をいただきました。ありがとうございました。このタウンミーティングは、私が市長に就任させていただいてから始めています。どちらが楽かという、市役所に皆さんが来られるのを待っているほうが楽ですが、本当にそれでいいんでしょうか。松山市は、旧松山市・旧北条市・旧中島町を合わせて41地区に分かれますけれども、それぞれの地区に課題や魅力があると思います。市民の皆さんのお声を聞かせていただこうと、このタウンミーティングを始めました。市長の任期は1期4年、48カ月です。松山市内は41地区に分かれていますので、1カ月に1地区のペースで回らせていただこうと思いましたが、おかげさまで好評になり、1期4年の間に41地区を二巡りさせていただきました。松山市版のタウンミーティングは、できる限りこの場でお答えいたしますが、国や県に関係する案件や、財政的に十分検討を要するものについては、いい加減な返事をして帰るわけにはいきませんから、一旦持ち帰り、必ずお返事させていただいています。今、2期目に入らせていただきましたが、この地域別タウンミーティングに加えて、職業別と世代別のタウンミーティングを行っています。職業別タウンミーティングでは、農業に携わる方や商店街組合の方々と、世代別タウンミーティングでは、人生の先輩方や大学生、専門学校生とのタウンミーティングを重ねています。本日は皆さんと有意義な意見交換をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【司会】 それでは、味生地区の取り組みについて市長からご説明いたします。

【市長】 本日でこのタウンミーティングは108回目になりますが、味生地区で行うのは3回目です。それでは、これまでの味生地区のタウンミーティングでいただいたご意見に対する代表的な事例をご紹介します。まず、平成24年12月に開催した1巡目タウンミーティングでは、「味生地区は道路環境が悪く、通学の自転車が多い。道路標示が薄くなっているところが多いので、きちんと表示してほしい」というご意見をいただきました。松山市では、平成24年度に地元関係者、PTA、警察、県、市の道路管理者による通学路の緊急合同点検を行いました。なぜしたかという、平成24年4月に京都で通学中の子どもたちの列に、一晩中運転していた若者の軽自動車が入り込んで、10人が死傷した事故がありましたので、松山市ではそのような事故があってはいけないということから、夏休みに皆さんに集まっていただいて通学路の合同点検を行いました。味生小学校と味生第二小学校の通学路では、これまでに危険箇所11

カ所の対策を実施してきました。道路標示については、薄くなった白線の塗り直しや、横断歩道が目立つように路面のカラー化、速度を抑えるための減速マーク、グリーンベルト、交差点マークなど整備を実施しました。また、緊急合同点検から5年を経過しているため、今年度に2回目の通学路合同点検を実施しました。味生第二小学校は8月に、味生小学校は11月に通学路点検を実施しました。各小学校の危険箇所及び対策は、来月の4月頃に松山市ホームページで公表できるように準備を進めていて、以降も、毎月更新して皆さんにお知らせする予定です。これからも関係機関と連携し、継続して通学路の安全対策に努めていきます。また、同じく通学路の安全対策として、1巡目のタウンミーティングで、「子どもたちが安全に登下校できるように、味生小学校西門横の橋を、新しい橋に取り替えてほしい」というご意見をいただきました。早速、タウンミーティングの翌日に、現地確認を行いました。橋そのものの安全性は確保されていましたが、ガードレールが低く転落の可能性があります。また、経年劣化によりさびが生じていましたので、農道を管理する地元水利組合から松山市に工事施行申請書を提出いただき、平成25年9月に、橋の手すりなどの改良と舗装の改修工事を実施しました。次に、同じく1巡目のタウンミーティングで、「津田中学校の南校舎は、木が茂っていて暗いので伐採してほしい」というご意見をいただきました。津田中学校の南校舎に影響している樹木については、平成25年度に可能な範囲で剪定を行いました。その後、南校舎の耐震補強工事にあわせて、校舎内の照明を全面的に明るいものに交換しましたので、よりよい学習環境をつくることができます。また、学校からの要望を受けて、平成28年度と29年度にも樹木の剪定を実施しています。次に、平成26年9月に開催した2巡目タウンミーティングでは、「津田団地花公園にベンチを設置してほしい」というご意見をいただきました。タウンミーティング後に、地元公園管理者の方とお話をさせていただき、平成28年3月に地元の皆さんから要望書をいただきました。そして、平成28年9月に休憩施設としてベンチ2基の設置を行いました。津田団地花公園は、地域の皆さまのご協力により、たくさんある花壇の手入れを熱心に行っているという聞いています。ベンチを設置した公園をより一層ご利用いただきたいと思います。通学路の緊急点検のページを皆さんにも見ていただきたいと思います。松山市のホームページのトップページに「通学路の安全対策に努めています」というところがあります。ここを選んでいただいて、ページを下のほうにスクロールしていただくと、五十音順に小学校名が出てきます。小学校名をクリックしてもらえると、このようにこれだけの危険箇所があつて、こういう対応をさせていただきましたというのが全部出ています。ほったらかしにはしていませんよというのがわかっていたかだと思います。お時間があるときにホームページを見られる環境のところで見いただいたらと思います。タウンミーティングでいただいたご意見への対応について述べさせていただきました。いつもタウンミーティングで申し上げていますが、まちづくりには大きく三つあると思います。まず、一つ目に「地域の皆さんができること」があります。二つ目に「行政がやるべき

こと」があります。三つ目に「地域の皆さんと私たち行政が一緒になってできること」があります。本日のテーマは、「都市基盤の整備と安全・安心なまちづくりについて」と「今後のまちづくりと福祉・教育について」についてですが、皆さんと有意義な意見交換ができればと思います。どうぞよろしくをお願いします。

【男性】 これは大きいお願いですが、味生ふれあいセンターには、児童館、まちづくり協議会の事務所、包括センター、児童クラブが入っています。味生地区は若い人が増えて、児童館に来られる方が非常に多く、いつも駐車場がいっぱいで、私も交通整理をしないといけないような状態なので、早急に駐車場の対策をしてほしいと思います。

【生涯学習政策課長】 教育委員会事務局次長の家串と申します。味生公民館は、駐車場が約20台あって、通常の公民館よりは駐車場が確保できていると思っていますが、公民館、児童館、包括支援センターの複合施設ということで、いろんなイベントが重なったときに非常にお困りだというお声は私どもも承知しています。しかしながら、厳しい財政状況の中で、新たな敷地を確保することは非常に難しいことですので、現状もしていただいているとは思いますが、近くの学校と協力していただき、学校の敷地に確保していくということをお願いできないかと思っています。

【市長】 まず、駐車場の整理のことで、ご協力をいただきまして感謝申し上げたいと思います。公民館は社会教育、学校は学校教育という分野になり、ともに教育委員会が所管しています。ですので、公民館と学校が連携や調整をしながらやればなと思っています。今、特に子どもの分野でいうと、児童クラブを増やしてくださいというのと、保育所を増やしてくださいというニーズがものすごくあるんです。そして、私もいずれそうなりますけれども、高齢になると病院にかかる方も増えてきます。医療、介護、福祉のお金も増えている中で、子どもだけ、おじいちゃん、おばあちゃんだけというわけにはいきません。国のほうでは一千兆円を超える借金を抱えていると言われていますが、国から地方税交付金や国庫支出金のかたちで地方にお金が回ってくるんですけれども、国が大変な借金を抱えているので、地方に回ってくるお金が増えるとは考えにくいですよ。決まった財布の中で子どもにかかるお金は増えています。また、人生の先輩方の医療、介護、福祉にかかるお金も増えているということで、土地を買うのがなかなか難しくなってきました。例えば、石井支所は利用者が多いので、隣に民間の駐車場を6台分貸していただいたケースがあります。なかなか土地の確保は財政的に難しいですけれども、知恵と工夫と連携でやっていきたいと思っていますので、ご協力のほどよろしくをお願いします。

【男性】 いつもお世話になります。味生第二小学校でPTA活動をしています。市長、今日の卒業式は素敵なメッセージありがとうございました。先ほどの話と関連することで、児童クラブのことをお伺いします。味生第二小学校の児童クラブは、新年度を迎え

150人を超える子どもたちが利用することになっています。そのような中で、味生第二小学校の児童クラブは、二階建ての簡易的な建物で運営していますが、キャパ的に厳しい状態になっています。できれば学校の中で児童クラブの運営をしたいと思っ
ているのですが、そこでまかなえない部分は公民館の一室をお借りすることになりました。まだこの先何年かは味生第二小学校区の子どもの数は増えていくと聞いています。今（児童クラブが）建っている場所は急斜面にありまして、何かあったときには危険ではないか、子どもたちが避難する場所はあるのかといったことを保護者からたくさん意見としていただいているのですが、対策していただけるのでしょうか。また、先ほど、駐車場のことがあったんですけども、味生第二小学校の児童クラブを利用している保護者が、味生小学校のグラウンドを使わせていただくことがいいのかどうかをお答えいただけたらと思います。よろしくお願ひします。

【保健福祉政策課長】 保健福祉部の石丸です。よろしくお願ひします。味生第二小学校の児童クラブは、平成8年に開設させていただきまして、平成22年度から敷地内に専用施設を2施設整備させていただきまして、平成28年度から全学年の児童を受け入れていまして、平成29年5月1日現在で、2つの児童クラブを合わせて108名です。年々利用者が多くなっていますので、平成30年度から味生児童館内に第3の児童クラブを設置することになっています。この校区だけではなくて、市内全域で児童が増えている状況の中で、なかなか解決までには至っていませんが、例えば、支援員を増やすことを来年度からしようとしています。徐々にではありますが、対策はさせていただいていますので、ご理解いただければと思います。駐車場につきましては、先ほども申し上げましたけれども、なかなか難しいところがありまして、すぐに解決することにはなりません。教育委員会と協力しながら検討させていただいたらと思います。

【生涯学習政策課長】 味生小学校の駐車場を利用することは、改めて小学校とも話してからお返事させていただきたいと思ひます。

【市長】 児童クラブが斜面の近くにあつて危ないのではないかという声があるということでしたが、それについては改めてお返事させていただきます。大丈夫ですよということがお伝えできれば皆さんほつとされるでしょうし、持ち帰らせていただいて、できるだけ早く返事をさせていただきます。

【男性】 要望としては、できれば学校の中ですべての児童クラブの生徒を受け入れられる環境を整えていただきたいということです。

【市長】 味生でもお子さんが増えていて、いいことだと思ひます。子宝というように、これからの松山、愛媛、日本をつくってくれるのは子どもたちですよ。その数が増えているのはいいことだと思ひます。子育てがしにくいのだつたら子どもは一人でいいやということになりますので、子どもの数はなかなか増えないですよ。どんどん人口が減っていくことになりますから、できるだけ子育てのサポートをしていきたいと思ひます。平成26年、保育所の数は66園でしたが、平成29年は109園と、この4

年間で43園増やしました。受け入れの数は6,195人だったのが7,637人と、1,500人ほど定員を増やすことができました。よくニュースで見られると思いますが、保育士不足なんです。児童クラブも平成26年は64クラブだったのですが、今は102クラブで、38クラブ増やすことができました。受け入れの人数も3,536人から4,968人と1,400人を超えて増やしてきました。松山市として、できるだけ受け入れできる人数を増やそうとしています。子育てのサポートをしっかりとしていますが、児童クラブで働く人の確保がなかなか難しいです。平成27年度から児童クラブ人材バンクを立ち上げ、松山市のすべてのご家庭に届く広報まつやまで登録の募集を行い、各支所に募集案内を置いて周知を努めています。まだまだ支援員が不足しています。平成30年度予算では、運営委員会の1時間当たりの賃金の単価を、これまでより10%引き上げて、雇用の定着や新規採用を図っていくことができるようにしています。そして、何年働いてもお給料が一緒とにならないように、経験年数に応じて支援員の賃金などの処遇改善を実施した運営委員会に委託料を加算するキャリアアップ手当をつくり、継続して就労できる環境を整備することにしています。できるだけ働く人を確保していきたいと思っています。一生懸命やっているところですけども、場所や駐車場のことも含めて、さまざまなサポートをしていきたいと思っていますので、ご理解のほどよろしくお願ひします。

【男性】 私は、まちづくり協議会の準備会の役員をしています。まもなく本格的に味生地区でもまちづくり協議会の立ち上げが始まりますけれども、タイミングを合わせてのタウンミーティングの開催、本当にありがとうございます。先ほどから、財政難と市長さんや教育委員会の次長さんなども言われていますが、それはよくわかります。子育てにもお金が必要ですし、2025年問題、高齢化社会にもたくさんお金が必要です。その時期にあえて申し上げさせていただきますけれども、まちづくり協議会は1地区立ち上げますと、年間で約230万円の補助金が出ます。41地区で立ち上がりますと、年間で約8千万円の余分なお金が必要ですよ。この財政難の厳しい時期になぜそういうことを考えられるのか。また、私が心配しているのは、今はよくても、「これからは各地区が自前でやってくださいよ」と言われた場合に、年間230万円のお金はこの地区では到底まかなえません。そのあたりの将来の展望について、市長さんの考え方をお聞かせいただきたいと思っています。

【市長】 まちづくり協議会の事務局をされているということで、謙遜されて余分なお金だとおっしゃったのかもしれませんが、余分ではありません。まちづくり協議会をつくっていただいたら、「権限と財源を地区にお渡しし、皆さんでまちづくりをしていただきますよ」と。そのほうがいいまちづくりができますよね。「魅力を伸ばしやすい、課題を減らしやすい、いいまちづくりができますよ」ということで、まちづくり協議会を進めています。決して余分なお金ではありませんので、ご安心いただいたらと思ひま

す。これは市民部長から、できるだけ皆さんにもわかりやすくお話をしてください。

【市民部長】 市民部長の唐崎でございます。よろしくお願ひいたします。今後ますます人口が減って収入は見込めない、また、子どもや高齢者の方々に費用がかかっている中であるからこそ、まちづくり協議会を普及させていきたいと考えています。行政には公平性が求められます。行政がすると、各地区に同じ対応をすることになって、各地区が一番求めているものではないけれども、公平性のためにもものをつくることになったりします。そうすると、ある程度の無駄も出てしまいます。その無駄をなくしていこうというのが、このまちづくり協議会で、市長が申しましたとおり、権限と財源の移譲をして、交付金を各まちづくり協議会にお渡しして、各地区の皆さんが求めることや必要だと思うことに自由に使っていただきます。その地区ごとに有効にお金が使われるということで、松山市としては、効率的なお金の使い方ができると考えています。

【市長】 少し補足をさせていただくと、市役所が各地区の魅力や課題を一番わかっているのではなくて、やはりその地区に住んでいる皆さん方が、各地区の魅力や課題をわかっていると思います。41地区すべてのことを、市役所主体でやろうと思ったら、対応も遅れます。「私らがしてほしいのはそういうことじゃなくて、こういうことなんだ」ということにもなります。地元の良い組織であるまちづくり協議会ができれば、財源と権限をお渡ししましょうというのが、まちづくり協議会です。今、松山市は41地区の中で、準備会も含めて28地区できました。これまでに、まちづくり協議会がうまくいっていないから解散というところはないんです。市役所が中心になってまちづくりをすると、41地区全部がおたやん飴みたいな、どこを切っても同じようなまちづくりになってしまいます。やはり、各地区の魅力を伸ばして、課題は減らしていくまちづくりが大事です。各地区が輝いたら、その41地区の集合体である松山市はより輝くということになりますので、松山市にとってまちづくり協議会はすごく大事なものなんです。

【男性】 水路の整備あるいは水害対策について連絡させていただきます。住宅等の環境の変化や大雨などにより、水害がたくさん発生していて、特に山西地区は水害で非常に困っています。水路の設備が古くなっているのと、住宅が増えて環境が非常に変わってきていて、最近は大雨が多く、水路が溢れている状態がここ2、3年前から続いています。山西地区は水路が隣の三津浜地区のほうに流れている関係で、三津浜も水路が溢れています。河川水路課の担当の方ともいろいろとお話はしているのですが、大きな仕事になるので、すぐのことにはならないと聞いています。地元が考えているのは、宮前川にバイパスをつくって水を流すことを提案しているのですが、県が関係するのでなかなか交渉が難しいと聞いています。今のところ、手の打ちようがないんですけれども、市で何らかの対策を取っていただけたらと思っています。

【下水道政策課長】 下水道政策課の高木と申します。この味生地区の中では、空港通

り地区と山西地区を重点地区と位置付けています。山西地区はかなり範囲が広く、西衣山駅からJR三津浜駅の西くらいまでを全体的に取り組もうということになっていきます。先日の3月5日にも、伊予鉄道の高浜線が止まってしまって、皆さんにご迷惑をおかけしました。平成27年、平成28年の局地的な大雨によって線路が冠水しましたので、平成28年度に解析作業を行い、平成29年度に雨水整備基本計画をつくりました。そして、平成30年度にはこれらの工事をするために詳細設計に取り組み、平成31年度から工事に着手したいと考えています。浸水対策ですが、直径が2メートルくらいの下水道管を推進工法という工法でトンネルみたいにして、縦に穴を掘ってから横に掘っていきますが、そういった大きな工事をしていく関係で、どうしても下流の古三津のほうから上流の西衣山に向かって工事を進めていく計画になっています。

【市長】 気象台から提供されるデータがありますが、年々、降るときは降るけれど、降らないときは降らないというように波が大きくなっています。日本の気候が亜熱帯のようになっているんじゃないかと思えるくらいです。松山市は浸水にならないために、重点10地区を決めて、以前に比べると浸水するところは減ってきました。この間も大雨が降ったときのニュースで、伊予鉄道さんの郊外電車の線路が浸水被害にあって、松山市駅で新田高校や愛光高校の生徒さんが、「テストがあるのに困ったな」とインタビューに答えていましたので、下水道部の職員を呼んで、なんとかならないのかという話をしたところでした。できるだけ早く進めていきたいと思っていますので、今しばらくお待ちいただけたらと思います。

【男性】 交通がスムーズにいくというのは、車社会で一番大事だと思うのですが、電柱が道端にあったり、敷地内にあたりします。敷地内にあるのはいいのですが、道端にはみ出している電柱のために交通の流れが悪くなったり、皆さんも運転なさっていて気を遣われていると思います。特に新田高校の西側の道路などです。もちろん一度にはできないと思いますが、道路を広げるよりはお金もかからないと思います。都市の美化的な面でも、電柱の出入りがなるべくない都市にさせていただけたらと思います。また、信号の時間配分がおかしいと思うところもあります。新田高校の交差点ですけれど、西から東にいく時間と、南から北にいく時間の配分を見直してもらえたらと思います。

【都市・交通計画課長】 都市・交通計画課長の石井です。よろしく申し上げます。まず、電柱ですが、ご指摘のとおり民地の中に電柱を入れると随分助かるところは松山市内にも多くあります。ですが、「電柱を家の角に入れさせてください」という話に行くと、なかなか「はい」と言ってくれる人がいないので、私たちも苦慮しているところです。もし、この電柱をここに入れたいという場合は、地元の方でもいいですし、私たちでもいいのですが、電力事業者さんと話をしますので、教えていただけたらと思います。また、信号のサイクルは、警察の所管になりますが、警察も常々いろいろ計ったり、監視カメラみたいなもので見たりしながら解析はしているようなので、場所をあとで聞か

せていただきましたら、警察に申し伝えて、お返事をさせていただいたらと思いますので、よろしくをお願いします。

【市長】 今日のタウンミーティングは1時間30分の予定ですが、私たちは20時30分になったら蜘蛛の子散らすように帰るわけではありません。地図も持ってきていますので、「この場所なんよ」と遠慮なく言っていただいたらと思います。国道、県道、市道、また、私道や農道もありますが、「それは国のことですから国に言ってください」とか「県のことですから県に言ってください」とは言いません。我々から国や県にお伝えすることもできますので、遠慮なく言っていただいたらと思います。今、石井課長も申しあげましたように、例えば、「信号は赤で止まりましょう」とか「ここは30キロまでしかスピードを出しちゃいけませんよ」というように人を規制するのは警察の仕事になります。実は1回目のタウンミーティングで、皆さんから「新田高校の前の信号の時間設定を見直してほしい」というご意見をいただいて、松山西警察署にお伝えしましたら、朝の通学時に青信号の点灯時間を約5秒間延長することになりました。変わるんです。警察さんもしっかりと解析をしながらやっているんですけども、皆さんの声をいただいて変わることもあります。言っていただいたら、「これはできないんですけど、こういうやり方だったらできますよ」とお伝えすることもできます。「どうせ市役所に言うたって変わらへんわい」ではなくて、役立つ情報をお伝えすることもできると思いますので、遠慮なく言っていただいたらと思います。

【男性】 この地区で防災をやっています。昨今、この地区でも避難訓練をやっています。私も去年、味生小学校でリーダーとして避難訓練をさせていただいたんですけども、避難所運営管理計画を作成しています。ホームページで松山市がうたっています運営管理マニュアルによると、避難所の運営管理については、市担当者がキーパーソンなんです。その運営管理計画をつくるうえで、今のところ市担当者の部分だけ抜けてしまっているんで、1年に1回、話し合いをしたいんです。ダーティーな部分が出てくる、それを事前に打ち合わせでいざというときに備えたいという意向があるので、ぜひ我々の避難運営管理計画の打ち合わせを学校ですと思っていますので、そこに参加していただきたいです。今までは、危機管理課の皆さんが来られましたが、災害が起こったときは危機管理課の皆さんは災害対策本部のほうで、実際に避難所へ出て来られる方は違う方だと思うんです。ぜひ、参加していただけないでしょうかという、お金のかからないお願いをします。

【危機管理課長】 危機管理課長の川崎と申します。よろしくをお願いします。味生地区の自主防災組織の訓練は、かなり熱心に取り組んでいただいているということで、本当に感謝しています。大規模な災害によって長期間避難所を運営することになる場合には、それぞれの地域の事情に応じて、自主防災組織の皆さんを中心に地域で自主的な運営をしていただくこととなります。避難所ごとで運営管理マニュアルを作成していただくこ

とは、地域内で暮らされている要配慮者の施設であるとか、地域の実情に詳しい皆さんが協働して策定していただくことにより、より実効性の高いものになると思っています。我々、危機管理課の職員もいろいろと参加させていただいているんですけども、地域の皆さんの中で長期間に渡って避難所の運営をする場合、普段から顔の見える関係をつくっておくことは確かにすごく大事なことだと思っており、避難所の担当をする職員等の本来の業務の支障のない範囲で調整をさせていただいたらと思います。ぜひそういう機会があれば、危機管理課にご連絡いただけたらと思いますので、よろしくお願ひします。

【市長】 私も4年半前に防災士の資格を取らせていただきましたので、防災士の一人になります。やはり中心になるのは地元の方々なんです。いざ、避難生活が始まると地元の方々がどれだけ動けるかというのが大事になります。これは、冷たいようにとらないでいただきたいのですが、阪神大震災や東日本大震災の教訓で、本当に広い範囲で大きな災害が起こった場合、消防隊員や救急隊員が皆さんを必死で助けに行きますけれども、道が寸断されるなどすると、皆さんを助けに行くのには時間がかかってしまいます。そういうところで、自主防災組織の存在がものすごく大事なんです。今、松山市はおかげさまで自主防災組織の結成率が100パーセントまでできました。100パーセントまで達していない自治体はいっぱいあるんですよ。その自主防災組織の核になるのが防災士です。いざというときに避難所の運営ができる防災士は大事な存在なので、松山市は皆さんの税金を使わせていただいて育成してきました。今、全国の自治体別でトップの4千人を超える防災士が松山市内にいます。我々も必死の思いで助けに行きますけれども、やはり大きな災害が起こって、できるだけ早い段階で皆さんにどれだけ動いていただけるかというのが大事になります。皆さんがマニュアルや計画をつくる時には、我々はできるだけ専門的な見地から手助けしますが、皆さんが行政を当てにしてしまうのは、いざという災害のときにはよくありませんので、皆さんにどれだけ意識をしてもらえるか、どれだけ正しく恐れてもらってしっかり備えることが大事になりますので、こちらのほうもお願いします。これは防災について私がよくお話することですが、平成22年に防災マップをつくったときに、松山で何らかの大きな災害に遭遇すると考えている人は8割だったのに対し、その中で家具固定をしている人はたったの2割だったんです。私が防災士の資格をとったときに勉強させてもらいましたが、重いたんすが震度7の大きな揺れのときは、飛ぶような勢いで動いてくるんです。腕に当たったら腕の骨が折れます。足に当たったら、足の骨が折れます。体に当たらなくてよかったねと思われるかもしれませんが、倒れたら逃げ道をふさがれるんです。たんすは、中の衣類を除いて、大人二人の力で運べるぐらいだと思います。ですので、皆さんに家具固定をお願いしますと呼びかけています。また、1週間分の備蓄を松山市でも国でもお願ひしているんですけども、公でも一生懸命備蓄しています。例えば、坊っちゃんスタジアムのスタンドの下とか、分散しながら備蓄しているんですけども、いざという災害のと

きには、公で備蓄しているものは、公平性という観点から皆さんに並んでいただかなくてはいけなくなります。でも、皆さんで備蓄をしていただいたら、並ばなくて手に入る、好みのものが手に入ることになりますから、お手数ですけれども、備蓄をお願いします。この二つのことをお願いしています。ちょっと冷たいように感じるかもしれませんが、公でもしっかりやっていきますけれども、皆さんがどれだけ備えていただけるかが大事なことになりますので、ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いします。

【男性】 今日、町内に設置されている防犯灯の件で要望があります。町内会では、年に6月と12月、80カ所ほど防犯灯が付いていまして、役員等が点検等をしています。電球切れとか、防犯灯が暗いとかを調査して、市民参画まちづくり課に要望しましたら、本当に素早い対応をしていただいて、ありがとうございます。今回、新聞等で見えますと、省エネ法の改正で、2020年には蛍光灯の器具等が製造中止になるように聞きました。そこで、味生地区だけではなく、松山市全域に関することだと思えますけれども、ぜひ防犯灯の蛍光灯をLEDに随時替えてほしいということです。蛍光灯がLEDになりますと、電気代が半分で済みます。今、防犯灯の電気代は町内会費でまかなっておりまして、私どもは約24万円くらいかかっています。それが半分になるのであれば、ぜひ年次計画でやってほしいと思います。LEDに替わると電球切れもなくなります。それから蛍光灯よりも一層明るくなるということですので、よろしくお願いします。

【市民部長】 今、言われました省エネ法の改正ですが、経済産業省の資源エネルギー庁が発表していますけれども、蛍光灯の製造がなくなるというのは誤解ですとホームページに出ています。蛍光灯を一律に禁止するものではないということです。LEDの有効性を市も十分認識しています。松山市としても段階的にLEDへ交換していこうとしていて、新設につきましては平成24年度からすでにしており、器具取り替えは平成26年度からしています。ただ、器具は大丈夫で、蛍光灯がちょっと暗くなったとか切れた場合には、蛍光灯の切り替えにさせていただきます。その理由ですが、市内にたくさんある防犯灯を短期間に全部LEDにしようとするとう大な費用がかかりますので、徐々に新設と器具取り替えで進めさせていただきたいと思っています。電球が切れたときは、申しわけないですが、使えるものは使ってください、もう少し更新への時間をいただきたいと思っています。財政的な問題もありますので、ご理解をお願いします。

【男性】 味生第二小学校のPTA役員をしています。病児保育についてですが、うちの家族構成でいいますと、妻と共働きで、2年生と年長がいて、体の調子を悪くしたときに面倒を見てもらえる身内が近くにいないんです。今、病児保育をしているところが、松山市で二つか三つしかないと思うんです。今、うちが預けているのは三番町のほうで、仕事場は北条方面と松前方面に行っているんですけども、もう少しまんべん

なくあればすごく助かるなと思っています。よろしくお願いします。

【保健福祉政策課長】 今、言われましたように病児保育は市内4カ所で取り扱っています。場所ですと、石丸小児科、芳村小児科がまちなかで、天山病院、愛媛生協病院の4カ所になっています。それと市外になりますけれども、松前町とも提携をさせていただいて、対応ができるようにしています。医療機関等と協議をさせていただいて、お願いをしているところではありますけれども、なかなか子どもの病院は松山市では増えていません。逆に減っていくかたちになろうかと思っています。現在、松山市としてもできるだけ開業医を増やそうと努力していますけれども、なかなか手を挙げていただけるお医者さんがいないのが現状です。現在、開業をしていただけるお医者さんを探しているのが現状ですので、すぐにご希望に沿えることにはならないとは思いますが、私どもも努力はさせていただいていますので、今ある病院をまずはご利用いただければと思っていますので、よろしくお願いします。

【市長】 お子さんが病気になって、お父さん、お母さんが迎えに来てくださいとなった場合に、病児保育ができていたら安心ですよ。今、中予圏域の3市3町の松山市、伊予市、東温市、砥部町、松前町、久万高原町で連携していろんな取り組みをやっていきます。例えば、高額な消防のはしご車を全部の市でそろえると大変ですよ。でも、場所を考えておいたら、全部が全部買わなくてもいいんじゃないとか、救急医療というと、松山市内の病院を砥部の方も松前の方も利用されますので、3市3町で連携しましょうというのをやっていきます。病児保育も松前町や東温市の病院を利用できるようになりました。松山市の人でも、松前町の病院に行ってください。今、松山市内の小児科の先生方が高齢化してきて、全国に誇れる365日24時間の小児救急医療体制も先生方がちょっとしんどいと言われているんです。それを何とか食い止めようと、小児科医が少ない地域に開業したら、市がサポートして小児科医の方を確保しようと、新しい予算でやりはじめるところです。我々も何とか病児保育施設を増やしていきたいと思っていますので、ご理解をお願いします。

【女性】 味生第二小学校PTAの役員をしています。私は、教育の問題に関してお伝えしたいことがあります。私の娘のことで、何年か前に学校でいろいろありまして、そのときに自分がどこかに相談に行こうと思い、青少年センター内にある子ども総合相談センターに相談させてもらいました。そのあと、学校でも先生とお話をしようということだったのですが、担任の先生や生徒指導の先生としゃべりにくいことなどがありました。私自身も心理学を学び始め、カウンセラーを目指したことがあったんですけど、学校のスクールカウンセラーが、年々必要になっているのではないかと感じています。昔に比べると地域の方とかの見守りなどがだいぶ減ってきている時代になっていると思います。昔だったら、近所の方がサポートしてくださったりしていましたが、今の時代はそういうサポートも受けづらかったりということで、子どもの心理的な面で学校で

サポートしていただける方がいらっしゃったらいいなと常々感じています。スクールカウンセラーについて、どのように動かれているのかを聞かせていただけたらと思います。

【生涯学習政策課長】 スクールカウンセラーは、県が配置するようになっていまして、私どももできる限り人員を配置してほしいという要望を挙げていますが、県の査定の中で配置していただいています。時間単位で勤務していただいていることもあって、なかなか常時というかたちではできないかもわかりません。おっしゃった子ども総合相談には心理判定員や教員OBなどが専門的にいまして、学校に対しても丁寧にうまくつなげるように、私どもも心がけていますので、できましたらそちらのほうで対応させていただきたいと思っています。また、ご意見等ありましたら、おっしゃっていただきましたら対応させていただきますので、よろしくお願ひします。

【保健福祉政策課長】 今、教育委員会から申しましたけれども、築山町に子ども総合相談センターができています。市内には萱町の保健所と、平成29年度から余土にもできています。こちらには保健師、保育士、社会福祉士、心理判定員といった職員が専門でいますので、相談いただければ、関係各所に連携をとって対応していますので、相談いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

【女性】 こんばんは。この地域で民生児童委員をやっています。この地域は児童館がすごく充実してまして、いつ公民館をのぞいても児童館は利用者が多いです。けれども、高齢者の憩いの場はこの地区にはありません。今、地域に空き家があるところも多く出ていると思うんですが、もし借りられる空き家がありましたら、簡単なリフォームをしていただいて、小野地区のような高齢者の憩いの場ができないでしょうか。公民館でされている趣味の分野は、ここの地域でも発達しているんですけども、高齢者に限らずそういうのに属さない人がいつでも立ち寄れる場所があったらいいんじゃないかなというのが民生委員の立場としてあります。私は、ふれあいきいきサロンもやっていますが、見守りに行っている方に「来てください」と言っても、なかなか集会には来ないです。だから、友達同士で待ち合わせをして話せるとか、気軽に立ち寄れる場所があればいいなと思いますので、よろしくお願ひします。

【市長】 まちのお世話役として民生児童委員さんにはご尽力いただきありがとうございます。今、松山市はとにかく皆さんにつながってほしいと思っています。若いお父さんやお母さんが、抱えるようにして子育てをしたらしんどいですが、周りの人が助けてくれたら子育ても助かります。お年寄りの介護を抱えるようにしていたらしんどいですが、周りの人が「私がおじいちゃん、おばあちゃんを見とくけん、ちょっとお買物行っておいで」と声をかけてくれたら助かります。近所の目があると防犯も助かります。防災も、「あのおじいちゃん、おばあちゃんの顔が見えんけど大丈夫かな」とつながりがあると助かることがいっぱいあるんです。防犯も防災も子育ても介護も助かります。ですから、松山市では、とにかくつながってほしいと思っています。小野地区の取り組み

を言ってもらいましたが、八坂地区の取り組みもいいものがありますので、ご紹介します。

【市民部長】 市民部から他地区の事例を紹介させていただきます。八坂地区まちづくり協議会では、住民が交流する場として、ふれあいカフェを毎週木曜日に開催しています。ここでは、1杯100円でお茶やコーヒーを提供して、高齢者を中心に世間話や相談などを行っています。こちらは、西法寺というお寺さんのご協力をいただいて開催しています。このように、公共施設でなくてもアイデア次第で、新たな地域の拠点を生み出すことも可能になるのではないかと思います。公民館などの既存の施設をできる限り有効活用していただきながら、地域の皆さんで工夫をして、新たな交流拠点として、集まれる場をつくっていただきたいと思います。このような地域のまちづくりには、まちづくり協議会を通じて松山市も支援をさせていただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

【保健福祉政策課長】 先ほど、質問の中で、小野地区のお話が出ていましたが、小野地区では、「ふれあいサロン小野」をやっています。これは、平成16年に小野地区の空き店舗を活用しながら、地域の誰もが気軽にくつろげるように、健康づくり、生きがいづくり、学び、世代交流などができる場として開催されています。地区社会福祉協議会を中心に、地域住民が運営をされています。八坂地区と同じように、自分たちでコーヒーを出して、それをもとに運営費をまかなっていますので、紹介をさせていただきます。

【市長】 2025年に3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上になり、超高齢社会を迎えるのがいわゆる2025年問題といわれるものです。松山市が4月から始めるいろいろな取り組みをご紹介させていただきましたが、人生の先輩方がウォーキングや福祉まつりなど松山市や社会福祉協議会が主催する特定の事業に参加した場合に、ポイントを出しますよという高齢者いきいきチャレンジ事業というのを試行的に始めます。人生の先輩方が家に閉じこもりになるのではなくて、外出していただいたら、人と人がつながります。歩いていただいたら、健康になります。歩いていただいたら、季節の変化にも気づきますから、「梅が咲いたな」「桜が咲いたな」と心の健康にもつながります。人と人がつながると心の健康にもつながり、歩くと体の健康にもつながるといことで、できるだけ人生の先輩方に外に出ていただきましょうという取り組みをしています。また、花園町通りがきれいになりましたが、自動車道は交通量調査をしたら自動車道を狭めることができるということで、歩道広げてもっと歩く人に快適に自転車と分けてというのが花園町通りの取り組みです。とにかく皆さん方に元気で居続けていただきたいという思いで、松山市はさまざまな取り組みをしています。

【女性】 味生第二小学校に通っています。学校のアスレチックでいつも遊んでいて、アスレチックの丸太が折れていたり、滑って危ないところがあるので点検してもらいた

いです。

【生涯学習政策課長】 いつも遊んでくれてありがとうございます。常時、学校と連携して確認しているのですが、今のご意見をいただいて至急点検、確認をさせていただきます。ありがとうございました。

【市長】 早速見ておきます。ありがとう。

【男性】 味生地区で民生児童委員協議会のお世話をさせていただいています。今日の愛媛新聞の3面に超高齢社会というかなり重たいテーマの記事が載っていました。今後、在宅医療、在宅介護の方向に向かって行くらしいのですが、その反面で医療難民や介護難民、みとり難民といった言葉が福祉の分野では数年来叫ばれています。そこそこ元気で夫婦で生活をされている場合はいいと思いますが、我々民生委員としては、高齢の一人暮らしの方をどう支えるんだということが非常に重たくて見えにくいんです。これは大きくいえば国の責任になるんでしょうけれど、松山市の考え方などがありましたら、聞かせていただいたらと思います。

【保健福祉政策課長】 松山市では、民生児童委員の方や地域包括支援センターが、高齢者の世帯の日常の実態を把握したり、福祉ニーズの把握に努めています。家族構成が核家族化になって高齢者一人であるとか高齢世帯で生活をされている方とかが多くなっていて、その中でも最近では独居の方で亡くなられて数日経ってから見つかったという孤立死という問題も起きています。そういった中、松山市では民間事業者のご協力をいただきまして、見守りの範囲を広げて、異変があればいち早く察知をして高齢者や障がい者の方が安全で安心ができることを目的として、平成24年9月に松山市見守りネットワークをつくりました。これは、金融機関、電気、ガスなどの事業者と協定を結び、例えば数日間新聞や郵便物がたまっている場合は、近くの民生委員や松山市、社会福祉協議会に連絡をいただいて、状況確認をしています。

【市長】 この松山市見守りネットワークなど、さまざまやっているのが現状です。認知症の方が徘徊されることがあり、とても心配されますけれども、松山市認知症高齢者SOSネットワークというのも別につくったり、独居高齢者みまもり員制度や緊急通報ができる体制をつくったりしています。また、愛の一声訪問事業というのがありまして、77歳以上の一人暮らしの方を対象に、原則として週2回乳酸菌飲料をお届けして、安否確認や不慮の事故を防止する、社会的に孤立するのを防ぐ取り組みをしています。平成24年だったと思いますが、関東で姉妹の方が孤立死をされたことがあって、松山市ではこんなことがあってはいけないと、何とか松山市を挙げて取り組むことができないかと思いました。銀行の方は各ご家庭に集金に行ったり、電気屋さんも皆さんのところに電気のメーターを見に行ったり、ガスのメーターを見に行ったり、そういう方々も含めて松山市を挙げて孤立死を防ぐような取り組みをしています。人生の先輩方は今の松山、愛媛、日本を築いてくれた方々なので、そういった方が粗末にされない社会をつく

っていきたいと思って、取り組んでいるところです。

【男性】 地区の高齢クラブ連合会の役員をしています。私どもは元気な高齢者の皆さんの会です。一つの悩みは、高齢者はだんだん増えてくるんですが、高齢クラブに加入する人が非常に少ないんです。指導者というリーダーがいないことから、だんだん高齢クラブ自体も解散をしている傾向にあります。その話も大きな課題ですけれども、高齢クラブとして会員の皆さんがいろいろどこかに行って研修をしたい場合、問題は足の足なんです。バスで送り迎えしてくれる施設があればいいんですけれども、そういうところでないところに出かけてみたいというときに、有料のバスを借上げてとなるとかなり高額になるので、市で利用できるバスがあればいいなと前から思っていました。サロンではそういうバスを利用できることがあるんですけれども、高齢クラブとしてもそれを利用できるのかということと、何か別にできることがあればありがたいなと思っていますので、ご意見があったらお聞かせいただきたいと思います。

【保健福祉政策課長】 今、言われました市のバスですが、教育委員会で送迎バスがありますけれども、一般の方に貸し出しているバスは今現在ありません。ですので、市のほうで対応するのが難しいのが現状です。申しわけありません。サロンのときには、サロンで活動する中で費用を捻出されているのではないかなと推測しますが、市がそこにバスを用意するという事は現状としてはやっていないと認識しています。

【市長】 松山市には市長に直接メールが届くわがまちメール制度というものがあり、記憶間違いだったら申しわけありませんが、松山市も比較的關係が強い社会福祉協議会にバスの要望がきて、運転手さんの確保が難しいので現実化しないということがあります。たちまちは難しいですけれども、今日皆さんからいただいたご意見は、行政がすべきこと、地域の皆さんでできること、行政と地域の皆さんで協働してできること、行政がやるべきことに反映していきます。タウンミーティングでこういう市民の皆さんの声があったよね、やはり時代とともに必要なんじゃないかということで反映されていきますので、ご意見を受け止めさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

【男性】 私が聞きたいのは環境の問題で、宮前川の中州に相当のごみが溜まって、これがこの前の雨で一気に流されて、瀬戸内海や太平洋と今課題になっていますけれども、マナーの問題じゃないかなという意見です。いろいろ調べてみたら北斎院、南斎院の中州はよく分かるんです。ずっと上から流れてきているということで、南江戸にかかってくるし、これは先ほど市長が言われたように地域と行政で上手く取り組んでいくべきだと思います。味生地区のまちづくりでは環境問題を取り上げて、マナーの問題があるから広報や掲示板で防止していきたいなということで、行政もどうしても止まらないのならカメラをつけるとか、そういう方法も取り組んでいただきたいです。市全体で考えるのであれば、札幌の路面では大きく「ポイ捨て千円の罰金です」という掲示を行政がつ

けていると思うんです。そこらあたりも、考えてほしいなということです。

【市長】 実は松山市でも罰金を設けているところがありまして、城山、堀之内、道後地区などの重点地区では、命令違反者に対する罰金の規定もあります。実際に宮前川がなっていますかといったら宮前川はなっていないですが、確かにごみの投げ捨てるの多い川はあります。愛媛マラソンの練習で大川とか久万川沿いを走ったりするのですけれど、あそこもポイ捨てが多いんです。ペットボトルとかよく浮かんでいます。実はこういう投げ捨てるが多い河川や道路などは、申請いただいたら掲示用のポイ捨て禁止看板を無料で配布していますので、ひどいなというところがありましたら遠慮なく言っていただきたらと思います。ごみステーションもマナーが悪いところがあるのですが、そういうところに無料で配布できる看板を設置しましたら、結構マナーが良くなったところもありますので、そういう看板が欲しいところがありましたら、今日、終わりましたときに場所を教えてくださいたいと思います。また、宮前川の管理者は愛媛県ですが、県にも現場の状況をお伝えして対応を検討していただくよう、我々からもすでにお願いをしていますので、愛媛県とも連携して進めていきたいと思っています。

【市長】 今日は、本当に皆様方、ありがとうございます。今日は皆さんからずっと意見が出続けました。先ほど、申し上げましたように、今日いただいた意見は聞き流すのではなくて、1カ月をめぐりに皆様に意見対応表というのをお返しいたしますので、行政がやるべきことを教えていただいた、また、地域でできることはご協力いただきたいということをご理解いただきたいと思います。最後に、去年の大雨で重信川が戦後最高水位になった日のことをお伝えさせていただいたらと思います。松山市役所の5階に災害が起こったときの対策本部をつくりまして、そのスペースに職員がどっと集合してきます。どういう状況になるのかというと、まず、各地から、「ここの水路があふれそう、ここが危ない」という電話がものすごくかかってくるんです。それを一人ひとりの職員が受けて、メモして、担当に伝える作業があります。そして、いつ避難準備情報を出すのか、避難指示を出すのか、避難命令を出すのか、そういうことも气象台と連絡をしながらやっています。そして、避難所に連絡をして鍵を開けてほしい、何時に開けられて避難所を開放できるということをやったり、また各報道機関との対応です。NHKさんでも流してもらって、南海放送さんでも、テレビ愛媛さんでも、あいテレビさんでも、eatさんでも流してもらって、南海放送さんでも、テレビ愛媛さんでも、あいテレビさんでも、eatさんでも流してもらって、一斉配信もして、各放送局から問い合わせがくるわけです。その問い合わせにも職員たちは必至の思いでやっています。勤務時間は8時間ですが、もちろん8時間で終わりではなくて、対応にずっと追われる状況です。市役所だけで完結しているわけではなくて、各現場には消防団員とか消防職員などが配備されていくわけです。行政がやるべきところを、今、松山市役所は少数制でやっていますけれども、もちろん公でやるべきことはしっかりとやっていきますし、皆さんからの今日の声も生かしていきたいと思っていますが、行政でやるべきこと、地域で

もできること、ともに連携してできることがあろうかと思えます。市役所というのは市民の皆さんの役に立つ所で市役所でないといけないと思っていますので、市役所に言っても変わらんわいではなくて、遠慮なく言っていただいたらと思えます。今日は、遅くまで本当にありがとうございました。

—了—